

2011年10月7日

熊本市長 幸山 政史 様

子守唄の里・五木を育む清流川辺川を守る県民の会 代表 中島 康

熊本市島崎4丁目5-13

電話 090-2505-3880 FAX 096-354-2966

立野ダム建設促進に対する抗議文

～世界遺産登録をめざす阿蘇に、高さ90mのコンクリートのダムはいりません～

幸山市長におかれましては、日本一の地下水都市・熊本市の地下水の保全や、熊本市の河川環境の保全、災害対策などに常日頃からご配慮くださっていることに、心から感謝申し上げます。

さて、貴職は8月23日、国土交通省を訪れ、立野ダムの早期整備再開を訴えられたとのことですが、そのことに対して強く抗議します。

立野ダムは、南阿蘇村の白川・黒川合流点のすぐ下流に計画された、高さ約90mの洪水調節専用の穴あきダムです。ダムによる治水は想定以上の洪水には対処できず、洪水調節能力を失ったダムは災害源としかありません。現存する洪水調節専用の穴あきダムは益田川ダム（島根県）のみであり、治水効果が大いに疑問視されています。

洪水時の白川の水は多くの火山灰を含みます。白川にダムを造っても、土砂や火山灰で早い段階で埋まってしまうことは明らかです。また、穴あきダムは大量の土砂をため込み、洪水が終わった後もたまった土砂が流れ出し、長期間下流の川を濁すことは、川辺川上流の朴の木（ほうのき）ダムの例を見ても明らかです。立野ダム建設は、下流の白川の河川環境にも致命的なダメージを与えます。

立野ダム予定地の左岸は天然記念物として指定されている「阿蘇北向谷原始林」で、国立公園の特別保護区にも指定されています。立野ダムが建設されたならば、阿蘇北向谷原始林を含む広大な自然が洪水時に水没します。国立公園内にダムを造るべきではありません。高さ90mのコンクリートの巨大構造物ができれば、世界遺産登録をめざす阿蘇に致命的なダメージを与えます。

立野ダムは1983年に事業開始されましたが、ダム本体工事は長年凍結状態が続いてきました。立野ダムは、ダム本体工事や仮排水路工事に着手されていないにもかかわらず、総事業費約425億円のうちすでに約405億円が使われています。立野ダムは政権交代で事業検証の対象となり、国交省が立野ダムの総事業費を算定し直したところ、当初計画の2倍以上の約891億円になることが分かりました。川辺川ダムなどの例を考えるとさらに事業費が大きく膨らむことが容易に考えられます。この財政難の中、許されることではありません。

今後、立野ダム本体工事に着手するには、ダム基本計画の変更、白川の漁業者への補償交渉と同意、流域住民への説明など、これからも長い期間が必要です。しかし、下流の河川改修が計画通り進めば、白川の治水能力は大幅に向上します。

県内の1級河川でダムがないのは、白川だけです。コンクリートのダムをつくるのではなく、水源涵養林を育成し、阿蘇の草原を守り、白川中流域の農業を守ることが、白川の治水や熊本の地下水の保全にもつながります。立野ダムは阿蘇と白川流域の貴重な自然環境を破壊することは明白であり、今回の貴職の行動に強く抗議するとともに、立野ダム建設中止を含め以下3点を要望します。

記

1. 立野ダム建設の即時中止を国土交通省に要請すること。
2. 白川改修の早期完成を国土交通省に要請すること。
3. 日本一の地下水都市・熊本の地下水を保全する涵養林の育成や、阿蘇の草原の保全、白川中流域の農業を守ることに、これまで以上に取り組むこと。

以上